



CQM(超短期経済予測モデル)

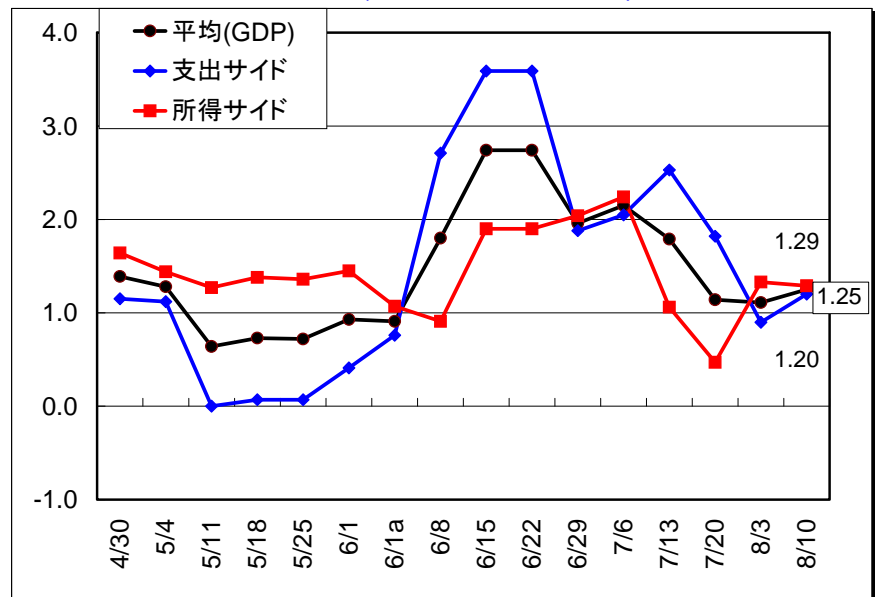
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2012年8月10日)

ポイント

- ▶今週の CQM は 2012 年 7-9 月期の実質 GDP 伸び率を支出、所得サイドからそれぞれ 1.20%、1.29%と予測している (グラフ)。
- ▶インフレ率に関しては、ヘッドラインインフレ率、そのコアインフレ率をそれぞれ 0.5%、1.5%程度と予測している。
- ▶6 月の貿易収支が大幅に改善したことから、前期の経済成長率 (1.5%: 速報値) が 1.8%程度に上方に改定されるだろう。
- ▶今週の CQM は今期の実質最終需要の伸び率を 2%~3%と予測しており、実質 GDP 伸び率は 1.0%~1.5%であるが、QE3 を必要とするほど景気は悪くない。
- ▶今後の輸出増、失業保険新規申請件数の堅調な改善には幾分疑問が残るが、今の景気見通しには月並みな表現だが "Cautiously Optimistic" が当てはまる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%、前期比年率換算)



＜最近の失業保険新規申請件数、6月の貿易収支から景気見通しが幾分明るいものに＞

8月10日のCQM予測は6月の卸売業在庫、消費者信用残高、貿易収支、7月の輸出入価格、連邦政府支出を更新した。その結果、今週のCQMは2012年7-9月期の実質GDP伸び率を支出サイドでは0.90%から1.20%へ、所得サイドでは1.33%から1.20%へそれぞれ修正した。両サイドからの平均実質GDP伸び率は1.11%から1.25%へ上方に修正された。

6月の卸売業の低下を6月の貿易収支の改善が大きく上回った。その結果、2012年4-6月期の実質GDP伸び率(1.5%:速報値)は1.8%程度に上方改定されるだろう。6月の貿易収支の改善は石油価格の低下のみならず、産業機器、自動車、消費財の輸出増による。欧州経済、中国経済などが停滞するなかで、ドル安の影響を受けての大幅な輸出増は、今後の景気見通しに明るさをもたらした。しかし、ISM製造業指数の構成項目の新規輸出受注指数が6月、7月と50を下回るようになってきていることが、今後の輸出動向についての懸念材料である。更に、1956年以来最悪の早魃の農産物輸出の影響も考えられる。

最近の失業保険新規申請件数は3月の水準にまで低下しており、今後の労働市場の改善への期待をもたらしている。しかし、これが今後堅調な下降トレンドを形成していくかに関しては、失業保険継続申請件数が4月以降フラットなことを考えると、まだ安心はできない。

今週のCQMは2012年第7-9月期における月次経済統計の実績値を7月の雇用統計、輸出入価格、連邦政府財政支出のみ更新している。それ故、景気の現状判断には実質最終需要(=GDP-在庫増、=GDP-在庫増-純輸出)をみるのがよい。今週のCQMはこれらの今期の伸び率を2%~3%と予測している。すなわち、現状の景気判断はQE3を導入するほど悪くはなく、米エコノミストが良く用いる "Cautiously Optimistic" というのが適している。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550